



うさ本ファミリー

楽しく子育て!

～子育て支援コーナー通信～

第95号

発行日

2015年4月19日

(毎月19日刊行)



司書のオススメ本

～お付き合いのコツ～

<企画展示コーナーから選んでみました>

わが家は昨年、引越しをして、娘は新しい保育園に通うようになりました。最初は登園拒否していましたが、今ではすっかり慣れて、新しいお友達と遊んでいます。ところが私は送り迎えをあまりしないので、いまだに誰が誰のお母さんなのかも覚えられません。さすがにまずいなあとと思いますが、なかなか…。

そんなとき、娘のバッグに、数少ないお知り合いのママから、「お下がりいりませんか」というお手紙が入っていました。ものをいただけること以上に、声をかけてもらったことがうれしかったです。お手紙ってなかなか書くことがありませんが、私もやってみようと思います。(H)

新しい本が入りました。

()内の数字は棚の番号です

『赤ちゃんと幼児のごはん 歯と体の発達に合わせた』

婦人之友社編集部／編
婦人之友社／刊

2015.3

(支援1-4)

『子どもと暮らすラクに片づく部屋づくり ママがラクになる! 思考の整理が導く片づけと収納のコツ』

宇高有香／著
辰巳出版／刊

2015.3

(支援2-1)

『子どものネットトラブルに悩む親の法律知識Q&A』

牧野和夫／編
中央経済社／刊

2015.3

(支援2-4)

『魔法の声かけ 子どもがぐんぐんやる気になる』

西村則康／著
主婦と生活社／刊

2015.3

(支援4-3)

<おススメbook>

『母の作法 身だしなみから人間関係まで』

辰巳渚／著 PHP研究所／刊

『お母さんのおつきあい上手になる話し方・マナー』

近藤珠實／監修 池田書店／刊

『わが子に伝える「話し方」の技術』

福田健／著 主婦の友社／刊



企画展示

「お付き合いのヒントBooks」展

子育て支援コーナーにて、平成27年5月24日(日)まで開催中!

子育て応援団を紹介します。 第1回

NPO法人 わははネット理事長 中橋恵美子さん①

香川県内の子育て支援を行っている団体や人をご紹介します。トップバッターは、NPO法人（特定非営利活動法人）わははネット理事長の中橋恵美子さんです。今月と来月の2回に分けてお伝えします。

Q1 主な活動内容を教えてください。

A : 子育て情報発信と親子の居場所づくりです。

子育て情報の発信としては、①子育て情報誌「おやこDEわはは」の作成②行政との協働による子育て冊子編集出版事業③わははメール（子育て情報配信サービス事業）があります。



以前は、子育て情報誌はあっても、施設の情報が中心でした。高松市と協働で作成した「たかまつらっこ（以下「らっこ）」は、お母さんの声を聴き、ランキングをのせたり、家庭内の危ないところや、絵本の情報を掲載しているという特徴があります。これで、高松市が全国広報誌コンクールの特別賞を受賞しました。他県の自治体で、「らっこ」によく似た子育て情報誌を作成しているところも（笑）。「らっこ」を初めて作成した際は、担当者を一人雇用しましたが、妊婦さんで、急に帝王切開になり、出産後、「帝王切開したら、補助金（注）が出ます。」と電話があり、それも掲載しました。今は、坂出市やまんのう町でも、子育て情報誌を作成しています。



わははメール（子育て情報配信サービス事業）は、現在、約4,000名の方が登録しており、イベント情報など、子育てに役立つ情報を配信しています。

親子の居場所づくりとしては、子育て応援スペース「わははひろば」が現在3ヶ所あります（坂出商店街、高松丸亀町商店街、香西）。それから派生するものとして、中・高校生と赤ちゃんのふれあい体験、企業向けの働きやすい職場づくり（ワークライフバランス推進のような）の働きかけを行っています。

（注）「高額療養費制度」と「医療費控除の還付申告」のこと。それぞれ支給条件があります。

Q2 設立経緯と名前の由来について教えてください。

A : 「わはは」は「輪母」と書き、『お母さん同士の輪』と『笑い声』をかけて命名しました。

育児サークルからスタートしましたが、立ち上げのきっかけは、3人目を妊娠中の約16年前です。今ほどインターネットは普及していないうえ、子育ての本は、東京の情報ばかりで、地元の情報はなく、情報不足からくる育児不安がありました。公共の施設も、「子どもがいると迷惑」という風潮がありました。「子どもがいると、できないことが多くなる。そんなはずではない。」というジレンマから、「自分たちで変えていかなくては」と思いました。

「わははひろば」は、坂出の空き店舗を借りて、自主事業でスタートし、2年目から坂出市の委託で運営するようになりました。その時に、わざわざ高松から坂出へ電車に来られる人がいました。その話をある会社の社長さんにお話したら、「高松でもすればいい」と、高松の倉庫を貸してくれ、最初は自主事業で、その後高松市から受託し、事業化しました。

「役所に要望を言うのは敷居が高いけど、同じ香川県の、同じように子どもを育てている人だったら、何か変わるかもしれない、変えてくれるかもしれない」という親近感があったのだと思います。お母さんたちの声に後押しされ、ファミリーサポートセンターや病児保育も、行政に必要性を訴えかけ、実現しました。（次号に続く）

インタビューした日：2015年1月27日



「わははひろば」目印の旗